第 2015-03 号

恵みと真理のニュース

2015 年 1 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]　私に教会学校の教師使命と信仰の配偶者に出会うようにしてくださり、私が切に望んだ家庭福音化を成し遂げるように摂理してくださった神様の恵みを賛美します

小学校の頃は引越しする村ことに道で伝道する人々が多かったです。その中である人をついて初めて教会に行って主日学校に通うようになりました。当時、母は一回も教会に行ったことがなかくて祖母はカトリックでした。父は若い時には教会を通ったが結婚してから教会と離れたそうです。神様を信じない家庭で生まれても感謝する事は私と兄は幼いときから教会学校で説教御言葉を聴き聖書を習って神様に対する信仰を持つようになりました。私が中学校に入学しながら引越ししてイワン市ネソン同で来ました。ここでも続けて教会を通うため自ら教会を探しました。同じ組みの友達の中で教会を通っている友達を探しました。そして恵みと真理教会を通っている友達に出会い教会を行くようになりました。誰も私に強く勧めなかったですが、私は続けて教会を通い神様に礼拝を捧げ聖書を習うべきだと思ったことが今考えても珍しいです。また、若い私に教会を愛し御言葉の恵みを望む心をくださった神様に感謝します。さらに感謝する事は恵みと真理教会に導いてくださった事です。教会生活に大きい力となり、家庭福音化に対する希望も出来ました。
私達の家庭がネソン同に定着する時に祖父と祖母と共に住みIMFによって経済的にも悪化され毎日が辛かったです。神様を委ねる信仰がなかったら克服できなかったと思います。私はもっと切に家庭福音化のため祈りました。“神様早くすべての家族が神様を信じ委ねるように導いてください。すべての家族が手を取って教会を通い主の中で仲良く生活するように助けてください。”
高校を卒業してから、私に初めて聖書を教えてくださって真心で見守ってくださった主日学校の先生を思いだしました。“若者を歩むべき道の初めに教育せよ。年老いてもそこからそれることがないであろう。”(箴言　22：6)御言葉に従順して教会学校の小学部の教師として奉仕しました。熱心にイエス様を仕えると神様は必ず親にも祝福を与える事を信じて希望を持って楽しく奉仕しました。誠実に職分を担えながら神様の中心、礼拝中心で生きる事に力を尽くす中に祈りが答えられました。まず祖母が教会に来ました。私と叔母さんの努力もありましたが何よりも神様の摂理と恵みでした。教会で家族を見ることだけでも感謝と喜びの涙を流しました。父と母のためもっと切に祈りました。するとまもなく母が今まで仲良かった首区域長をついて教会に通いその後、父も教会に来ました。ハレルヤ！
礼拝に参席して決信祈りをして祝いと歓迎のバラをもらう親を見ると胸いっぱいになりあまりにも嬉しくて感激で涙を流しました。“真の良い私の神様、私は何もしなかったですが、神様は私に大きい祝福を与えてくださった事感謝します。もうこれからもっと親と祖母が良く信仰生活をするように副を与えてください。神様に喜びの涙を流し感謝祈りを捧げました。
神様は恵みの上に恵みを与えて福の上に副を与えて下さり経済的にも克服する事が出来ました。そればかりでなく私達の家族が説教御言葉を聴き神様の愛とイエス様の赦しと犠牲を考え今まであった家族の仲での傷と問題が快復し治癒されました。
“主よ、わたしたちを御心に留め／祝福してください。イスラエルの家を祝福し／アロンの家を祝福してください。主を畏れる人を祝福し／大きな人も小さな人も祝福してください。”（詩篇１１５：１２，１３）
御言葉のとおり家庭に続けて良い事が出来ました。ソウルで大変に他の教会を通った兄も海外を行って来て自然にうちの教会の聖徒になり中高等部を仕える長になりました。
子供の頃、節に祈った通りすべての家族が共に手を繋いで教会に来て礼拝をし賛美して家に戻る祈りを神様が成し遂げてくださいました。母はその後から信仰生活をしていますが父は祖父の命日になると家族と共に家庭の礼拝を捧げます。家でも聖書を読んで賛美を歌う声を聴くことさえでも神様に感謝を捧げます。父が真の聖徒になって外の家族のように熱心に信仰生活をするその日を望みながら祈ります。
私の周りを見ると先に教会を通って信仰を持って子供の努力と伝道をしても親が救われ熱心に神様を信じる場合が少なくていつも不安でした。しかし、このように一人一人を教会に導いて神様の子供として変えてくださった神様の恵みに限りなく感謝を捧げます。そして神様は享年、おととし私と兄に信仰の配偶者を与えてきれいな家庭を作ってくださいました。神様の限りない愛と恵みに感謝を捧げます。
今年も担えられた教師の職分を真面目に忠誠してイエス様をもっと愛し生活をすることを決心しました。そしてどんな不可能でも可能なさる神様を仰ぎながら父も真の永遠な幸せを享受して生きるように、神様に選ばれ神様の子供になる恵みを願います。“ 主を呼ぶ人すべてに近くいまし／まことをもって呼ぶ人すべてに近くいまし、主を畏れる人々の望みをかなえ／叫びを聞いて救ってくださいます。”(詩篇145：18, 19)アーメン

[信仰コラム]　まことによく暮らす人

″神が造ったすべての物を見られたところ、それは、はなはだ良かった… ″(創世記, 1:31)

私たちは生活の状態に対して ’よく暮らす’ または ’暮す事ができない’ というものを言います。 概して経済的水準を思って言う言葉です。 ところで聖書的な観点で ’よく暮らす’ と言う概念はこのような次元とは違います。 皆さん各自が ″私はまことによく暮らす人です.″ と確信を持って言えるように願いながら、聖書的概念の ″まことによく暮らす人″が誰なのかをよく見ます。

第一に, ″まことによく暮らす人″はイエスキリストによる救いを得た人です。
人は誰も時限付き人生を暮しています。 死という時限爆弾を頭の上にかぶて行きます。 ところでもっと大きい問題は死が存在の終りではなく滅亡の宣告の刑執行という事実です。 これを思えば、良い家に暮して良い食べ物を食べて余裕のある生活をすると決して ″よく暮らす人″と言えないです。 全くよく暮らすということは彼が所有して享受する環境と肉身の状態より霊的な状態に関わります。 霊的に危機に処している人がその危機が分かることもできなくて　ただ肉身的な安楽のみを追い求めてこれを楽しんでいたらこれはむしろ悲劇です。 人生に一番急先務は救いを得ることです。 イエスキリストを信じて罪の赦しを受けて永生を得て天国を向かって行っている人は暮らすことも有益で死ぬことも有益です。

二番目で, ″まことによく暮らす人″は彼が行うすべての事が永遠で真の意味と価値を持たせる人です。
創世記 1 章の創造の記事に見れば ″神様の見られたところはなはだ良かった″と言う言葉がずっと出ます。 ところで神様の見られたところ良かった天地万物は将来に燃える火にすべてとけて消えるようになります。 人の犯罪によって呪われた世の中になったし汚染したからです。 だから神様は最後の審判の時に宇宙の掃除を断行なさって新しい天と新しい地が渡来するようになさいます。 そして新しいエルサレム城がその中に臨むようになります。 これは聖徒のために予備なさった所です。 最後の審判の時に不信者は火の池に投げられるが、反対に救いを得た聖徒は働いたとおり賞をくださる功力の審判を受けるようになります。 ″神様の見られたところ良かった″と言うのが審判基準です。それなら私たちが何をどのように行うのが神様の 見られたところ良いことですか?

第一に、神様を仕えるのです。 神様の第一、神様のまずで行って、神様のみを仕えなければなりません。

二番目で、主の仕事に力をつくすのです。 主の仕事と言うのは神様を仕えるために行うことを言います。 何種類で区分しようとすると、伝道と奉仕と救済と物質を差し上げる事です。 神様に差し上げる献金と献物は宣教活動、教会堂建築、救済、教役者の養成、信仰の教育など多くの方面に使われられます。 これは皆主の仕事で神様の見られたところ良いことです。

三番目で、祈祷に力をつくすのです。 祈祷は神様と交通して神様の能力が私たちの身と心と環境に現われさせる一番良い手段や方法です。 神様は彼の大きい能力を聖徒の生に現わして満たして解決して治療することを喜びます。

人は誰も多い財物と高い地位と名声を持つこと願ってまた長生きするのを願います。 しかし望むとなることができるのではないです。 ただその願うことをすべて成就したと言ってもそれだけで ″まことによく暮らす者″になるのではないです。 一方　誰でも本当に願えば ″まことによく暮らす人″になることができます。 彼が生きて行く都合と事情がどうしでも可能です。 ″まことによく暮らす人″はイエスキリストを信じて救いを得た人です。 そして彼が行うすべての事が永遠で真の意味と価値を持つようにする人です。 イエスキリストを信じて救い得た皆さんは与えられた一生の歳月が永遠で真の意味と価値を持つように神様だけ仕えて、主の仕事に力をつくして、祈祷に力をつくす生活をなさってください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’ 本の語り中」

めぐみにめぐみを加えられた

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

クリスチャンがたくさん使う用語の中に除くことができない言葉が “恵み”という言葉です。聖徒において信仰の深さは自分が分かって経験する神様の恵みの大きさに比例します。 神様の恵みが何なのか分からなくて恵みに対する感謝のない人は真のクリスチャンであるとできないです。 今日は恵みが何であり、恵みの上に恵みを受ける道が何かをよく見ます。

先に、恵みが何かをよく見ます。

第一に、一般的な恵みがあります。

私たちは空気を呼吸して水を飲んで光をあたて畑と野で育った植物とその実を食べます。 このようなものが自然の恵みです。 人は親の面倒だけでなく一生の間に他人の助けをたくさん受けます。 “自然や他人から受けるありがたい恵み”が恵みです。 このような恵みの根本出処は聖書に啓示された神様です。 神様が天地万物と自然法則を作ったからです。 イエスキリストがおっしゃるのを “こうして、天にいますあなたがたの父の子となるためである。天の父は、悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも、雨を降らして下さるからである。”（マタイによる福音書 5:45）しました。 自然の恵みを神様がすべての人にめいめいにすべてください。私たちが他人から受けるありがたい恵みも神様から始まったのです。 “自然や他人から受けるありがたい恵み”が神様の恵みという事実が分からないとか認めない人がいても、このような神様の恵みを受けないで生きて行くことができる人は一人もいないです。

二番目で、神霊な恵みがあります。

神様がくださる神霊な恵みはイエスキリストによります。 その中に最大のパーセントを占めるのが救いの恵みです。 救いはイエスキリストの成肉身とあがないの苦難と死そして復活によります。 だから聖書には “私たちの神様と主イエスキリストの恵み” あるいは “私たち主イエスキリストの恵み”と記録しています。神様のすべての恵みはイエスキリストにあって、イエスキリストによって与えられます。 救いという食器の中に盛られている贈り物はその貴重さと数字をすべて形言しにくいです。 重要なことを何の種類を選って見ましょう。 罪の赦しを受ける、義のあるようになる、聖徒になる、神様の子になる、天国を企業で受ける、復活の光栄に参加する、冕旒冠と賞を受けるのがあります。 だから救いの恵みを知らずに暮すよりもっと有害な無知はないです。 それは悲劇です。 “神はこう言われる、「わたしは、恵みの時にあなたの願いを聞きいれ、救の日にあなたを助けた」。見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である。”（コリント人への第二の手紙, 6:2）しました。 今信じて救いの恵みを受けなければなりません。 “イエスキリストだけが私の救世主である。” という信仰なしには救いを得ることができないです。さまざまの人々が心を開いて福音を受け入れます。 イエスキリストを信じて迎接します。

老若男女、人種、身分如何を問わず多様な階層の人々がイエスキリストに出て来ます。 これは神様の恵みによったのです。 使徒行伝 18章 27 節には “それから、アポロがアカヤに渡りたいと思っていたので、兄弟たちは彼を励まし、先方の弟子たちに、彼をよく迎えるようにと、手紙を書き送った。彼は到着して、すでにめぐみによって信者になっていた人たちに、大いに力になった。”と記録されています。コリント教会の教人がどのようにしてイエスキリストを信じるようになったのかを明らかにしています。 “恵みによって信じた者等”と言いました。 クリスチャンは誰も自分がイエス様を信じるようになったことが基本的には“神様の恵みによって”になった事実が分からなければなりません。 これは除くことができない決定的な理由です。 だからクリスチャンは誰でも “恵みを受けた者”です。
私たちがこの世の中に住むうちに信仰生活が上手にさせるために神様がくださる神霊な恵みがたくさんあります。

第一、聖霊の恩事を与える。 “知識の言葉、知恵の言葉、霊の分別、信仰、病いやし、能力行い、方言、方言通訳、予言”（コリント人への第一の手紙 12:8～10)という恩事があります。ローマ人への手紙,に記録されるのを “このように、わたしたちは与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っているので、もし、それが預言であれば、信仰の程度に応じて預言をし、奉仕であれば奉仕をし、また教える者であれば教え、勧めをする者であれば勧め、寄附する者は惜しみなく寄附し、指導する者は熱心に指導し、慈善をする者は快く慈善をすべきである。”（ローマ人への手紙, 12:6～8）しました。

第二、聖霊の実をください。 “御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実,柔和、自制であって、これらを否定する律法はない。”（ガラテヤ人への手紙, 5:22,23)という実があります。

第三、神様の言葉を読んで聞く時に悟らせます。

第四、イエス様を愛する心が炎のように起きさせます。

五番目、神様を仕えて奉事しようとする心が切実にならせます。 これは神様の恵みが臨んだからです。

六番目、弱いから強くします。 これは神様の恵みが臨んだからです。

七番目、祈祷の回答を与える。 祈祷の回答は皆神様の恵みによったのです。

次は、恵みの上に恵みを受ける道に対してよく見ます。

第一に、“私たちがすべてその満ち満ちているものの中から受けて、めぐみにめぐみを加えられた。”としました。

神様の恵みは極めて豊富であるから私たちが恵み受ける用意ができればいくらでも与えられます。 “彼の充満することから”と言いました。イエスキリストにあって神様の恵みは極めて豊富で世界中の人々がすべて持っても枯渇しないです。 ここで ‘充満’と言う単語は持続的な充満を示すことで木にずっと樹液ができて木の内を満たしていることのような状態を意味します 神様の充満することから私たちがいくら受けても神様の充満はあいかわらずです私たちのいただく恵みはこのような神の
充満することから始まる恵みです 私たちのいただく恵みはこのような神様の充満することから始まる恵みです。

するので “恵みの上に恵みを”を受けることができます。 絶えずに供給される恵みを受けることができます。

二番目で、主神様の恵みはいくらでも絶えずに供給されることができるが私たちが“恵みの上に恵みを”受けるためにはそこに適当な態度を取らなければなりません。

神様の恵みは水のようです。 水は上から下に流れます。 だから恵みを受けようとすれば低くならなければなりません。 謙遜な心を持たなければなりません。
ヤコブの手紙 4章 6節に “しかし神は、いや増しに恵みを賜う。であるから、「神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜う」”と言いました。
神様の恵みは光のようです。 光はカーテンを開いておいた窓を通じて溢れて入って行きます。だから恵みを受けようとすれば心を開かなければなりません。 心を開くために先に口を開けなければなりません。 悔い改めの口を開けなければなりません。 讃揚の口を開けなければなりません。 祈祷の口を開けなければなりません。 信じることの口を開けて自認めなければなりません。 “私が持ったすべてのものが神様の恵みです。 神様に光栄を帰するよ。”と言ってください。
神様の恵みは電流のようです。 １２年の間に血涙病を病む女人がいました。 その女人はイエス様の服に手だけつけても癒やすはずであるという信仰を持ってイエス様に進みました。女人は多くの人々をくぐって決死的についにはイエス様の服に手を出しました。 その即時に血涙が治りました。 その時イエスキリストが止めて立っておっしゃるのを “「だれかがわたしにさわった。力がわたしから出て行ったのを感じたのだ」。”（ルカによる福音書, 8:46）しました。 まるで電流が電線を通じて流れて行くように神様の能力がイエス様の服に信仰で手を出した女人に流れて行きました。 電流は絶縁物質で阻めば流れることができないです。恵みの流れを絶縁させる要素をとり除かなければなりません。 貪欲という絶縁要素をとり除かなければなりません。 恨みと不平という絶縁要素をとり除かなければなりません。我執という絶縁要素を捨てなければなりません。 偏見という絶縁要素を捨てなければなりません。自分の教派の教理や伝統を聖書の言葉よりもっと重く思う偏見のため聖霊の恩事を体験することができない信者がたまにいます。

三番目で、恵みの上に恵みを受けようとすれば恵みを切に望まなければなりません。

鹿が小川を慕うように切に望む心は恵みがよく流れて行く通路になることです

四番目で、恵みの上に恵みを受けようとすればもう受けた恵みによって感謝しなければなりません。

神様は恵み受けたことを感謝する聖徒に恵みを加えます “わたしたちすべての者は、その満ち満ちているものの中から受けて、めぐみにめぐみを加えられた。”（ヨハネによる福音書, 1:16）まだイエスキリストを信じない方々は今イエスキリストを迎接して救いの恵みを受けてください。

神様の恵みを受けた聖徒の皆さん、神様の恵みは限りなく豊富です。 神様を向けて謙遜で開かれた心を持ってください。 恵み受けるのを切に望んでください。 受けた恵みを推し量りながら感謝してください。 そして一生の間に恵みの上に恵みを加える体験が続くように願いします。